



多摩テクノプラザ技術交流会2014開催

2月6日に開催された多摩テクノプラザ技術交流会は、多摩テクノプラザの支援技術や連携機関の情報を中小企業の皆さまにお伝えし、講師や研究員との交流を深めて多摩テクノプラザをより身近に感じていただくイベントです。

プログラムは、“多摩テクノプラザの知って得する支援技術”から始まりました。「電子回路製品の設計支援について」(電子・機械グループ 佐藤研)は、ノイズ対策を施した産業用コンピュータ開発の共同研究事例などを、「機械系製品の評価・計測支援について」(電子・機械グループ 鈴木悠矢)は、3次元CAD、3Dプリンターによる3Dデジタルものづくり支援、疲労・振動などの評価機器と実例を紹介しました。「繊維分野の産業資材への展開—金属繊維の活用事例紹介—」(繊維・化学グループ 窪寺健吾)では、繊維技術の新たな展開である、導電性、強度向上、耐熱性などを生かした金属繊維の製品開発(医療器具資材、防虫ネットなど)を紹介。「塗装品や金属品の断面観察からわかること」(繊維・化学グループ 神谷嘉美)は、製品表面の断面観察からわかる塗装欠陥や履歴情報について、事例写真を使ってわかりやすく解説しました。

続いて“知って得する連携機関情報”の「大学のノウハウの使い方」(首都大産学公連携センター 中西俊彦氏)では、「ガス給湯器の専門家は大学にはいない。大学にいるのは熱源の制御や配管内の流体力学など要素技術の専門家」と述べられ、要素技術と商品開発の間を埋めていくのが産学公連携センターの役割であるとお話されました。「日本公庫のベンチャー向け融資制度のご案内」(日本政策金融公庫 眞崎

恵介氏)は、平成25年に始まった「資本性ローン」制度の要点を詳しく紹介されました。お話を聞きながら大きくうなづく方やペンを走らせ続ける方などが多く見られ、お役立ち情報を提供することができたと思います。

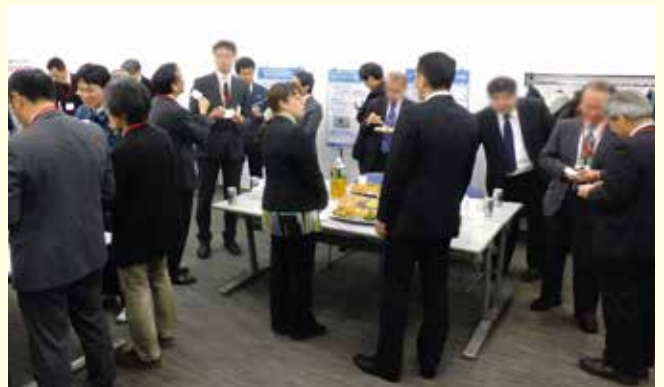
特別講演「ロボット創造学入門」(東工大名誉教授 広瀬茂男氏)は、ロボットの創造開発に必要な10項目として、「関連情報の収集」、「目的の明確化」、「制約条件の明確化」、「必要十分な目的と制約条件での検討」、「補助線機構の導入」、「機能複合化とシンプルさの追求」、「必要十分な能動自由度と受動自由度の導入」、「力とエネルギーの可視化」、「頻繁な物理法則への立ち返り」、「設計後の反省と暗黙知の形式知への昇華」を挙げ、それぞれの項目について、ご自身の開発されたさまざまなロボットの動画や設計図を示しながらお話されました。足を怪我されていて初めは座っておられましたが、最後には立ちあがっての熱弁でした。

講師・研究員、お客さまが軽い飲食とともに交流するイブニングセッションでは、講演内容や展示した研究成果パネルなどを話題に盛り上がりました。

次年度もバージョンアップした「多摩テクノプラザ技術交流会2015」の開催を予定しています。ホームページなどでお知らせしますので、お気軽にご参加ください。



ロボットの動画を熱心に視る参加者



イブニングセッションで名刺交換や技術談義で盛り上がる参加者

総合支援課 <多摩テクノプラザ>
小山 元子 TEL 042-500-2300
E-mail: koyama.motoko@iri-tokyo.jp